

令和5年度 グローバル教育講演会について

1. 実施概要

(1)実施の目的

SDGsの目標①「貧困問題解決」、目標⑧「持続可能な経済成長」について学び、その現場に携わられている方の話を聞き、グラデュエーションポリシーにある「グローバル人材」とは何かについて考える。

(2)実施日時

令和5年12月13日（水）5，6校時

(3)講師

服部 義典 日揮グローバル株式会社所属

(4)講演の内容

オイルプラントやLNGに関わる様々な事業とそこで働くグローバル人材について

(5)事前学習と講演会の構成

事前学習（前週のLHR）においては主にSDGsの目標①「貧困問題解決」の角度からグローバル人材について考え、また講演会の講師の方が所属する会社のEPC事業について理解を深めた。

（※E=Engineering, P=Procurement, C=Construction）

講演会は1部を講師とファシリテーターによる進行の形式、2部を生徒が参加してのパネルディスカッション形式で行われた。



講演会 1部

（講師とファシリテーターによる進行）の様子



講演会 2 部
(パネルディスカッション) の様子

2. 事前学習 事前学習における生徒の主な回答

【事前学習・最も印象に残った学び】

- イメージ的には発展途上国は大変なおもいをしながら少量のお給料で働いている人が沢山いるというのは知っていたけど、想像を超える衝撃的な映像が印象的だった。
- ゴミの山に暮らしている人が、一回崩れてたくさんの方が亡くなったのに、またゴミ山を開放してくれと言っていた。それほどゴミがないと暮らせないと思った。
- スモーキーマウンテンとコーヒーの動画を見て、発展途上国と先進国の関係を考えさせられました。
- コーヒーの話聞いて、私たちの飲むコーヒー一杯は発展途上国の人にわずかなお金しか入らないのを聞いて、そもそものコーヒーを作るのに一番必要なコーヒー豆を作ってくれている人に申し訳ないし、もっと多くの企業がフェアトレードをやっていくべきだと思った。
- ゴミ捨て場の人々の動画がとても印象に残っています。自分が思っている以上に悲惨なことが起こっていてとても驚かされました。動画を見たからにはもう見て見ぬふりはできないと思います。正直今の自分に何ができるかはわかりませんが、これから見つけていきたいです。

3. 講演会後の振り返りへの生徒の主な回答

【講演会を聴いて、新たに学んだこと】

- 海外で働くということは、海外の文化などを知り、理解を深めた上で働かなければならないことがわかった。その国の言語を習得するよりも、文化を知らずにきてしまうと、戸惑いが起こるため、文化理解がとても大切だと感じた。
- 文化の違い、特にインドでは首を縦に振ると「いいえ」横に振ると「はい」になったりと、日本と真逆だったりするので気をつけたい。
- 外国語の得意、不得意ではなく、自分がその業界で、何を成し遂げたいか、だとういことを学んだ。自分は外国語でのスピーキングやリスニングが苦手で、今までグローバルに活躍できる職業を自分の視野から外していたが、これからは世界全体に目を向けて、広い視野をもちながら、将来の職業を考えていこう、と思った。
- 今までは自分の知っている中から将来どうするかというのを決めないといけないと思っていたが、今回の講演を聴き自分の知らない事がまだまだたくさんあると思った。
- 掛け合い式（パネルディスカッション）は初めて見たけど、準備してきたことだけでなくその場で即座に考えて答えなきゃいけないのはすごく大変なことだと身に沁みて感じた。
- グローバルと言うのは、ただ英語ができるだけじゃないということがわかりました。また、自分の軸を2つ持つというのを、実行したいと思った。

【あなたの考える「グローバル人材」の定義】

- 英語はもちろん、会社によるけど他にも特意的な教科が必要なこと。
- コミュニケーション能力はもちろんのこと主体的に物事に組み込みどんなことにも柔軟に対応することだと思います。
- 英語ができて他にもう一本軸がある人間。
- 英語能力があるのもそうですが、1番は視野を広く持っている人だと思います。
- 世界に目を向けて、世の中をより良くしていこうと考えて、その考えを実行に移すことができる人